

ころばん体操出前講座活動報告(令和3年7月9日)

【講話】「知って安心 訪問看護サービス」 訪問看護ステーションさくら 所長 畑中勇二

どんな状態の人も自宅で暮らしたいと思えば家で過ごせる手段があります。国も、医療費や介護費の出費を抑える為に在宅医療の体制づくりをすすめています。訪問看護は、医療や介護が必要になっても自宅で過ごしたい人の希望に沿って24時間365日必要に応じて駆けつけます。自宅に訪問して健康状態のチェックやリハビリや入浴の介護、認知症の方の精神的な援助、お薬が管理できない人の援助を行っています。最近では自宅で家族が看取るケースも月に2~3名程あります。ご家族で看取るためのサポートをして、ご家族だけで見守りながら亡くられるケースもあります。癌の患者さんは最後まで痛みを訴えるイメージがありますが、薬も開発されて痛みをかなり緩和して自宅で過ごすことが楽になっています。在宅医療は病気と闘うのではなく病気のその人に寄り添う

見守る医療のイメージです。訪問看護は、～安心、お守り、訪問看護～と覚えてください。自宅という特別個室にいて必要な時に看護師さんが駆けつけるといったイメージで訪問看護を知っていただきたいと思えます

令和3年6月17日(木)出前講座 汐見町公民館 9:00~10:00(参加者15名)

【参加者の声】

「いつまでも自宅で暮らして行きたいと思えますか・？」の問いに大半の方が「はい」と返答されました。

認知症の方が病院では不穏になって点滴の針を抜くなどの行為があったりしますが自宅ではほぼ落ち着いて受けられます。との話に興味深く聞いて聴かれています。

在宅での見取り事例についても熱心に聴きて肯かれる様子が印象的でした。「今日は、新型コロナワクチン接種を昨日受けた方が数名お休みでした。とてもいい話だったので、一緒に聴けなくて残念でした。」と話された。



汐見町公民館へは平成28年9月に出前講座にお伺いし、在宅医療についてのお話をさせていた事があり、非常に懐かしい思い出でした。在宅医療のパンフレットを少し思いだして下さった方もありました。「ためになる話を聴けて良かった。今度は忘れないようにします。」と帰り際にお声掛けしていただきました。

令和3年7月8日(木)出前講座 大原南公民館 9:30~10:30(参加者16名)

【参加者の声】

「いつまでも、病気になっても、お家で暮らしたい」と思っているもその時になってみないと分からない・・・「でも最後はお家がいいよねえ・・・」

「昔はみんな家で亡くなっていたけど・・・今は一人だし、だれも見てくれないから・・・」

「やっぱり”ぴんぴんコロリ”が理想よね・・・みんなそうよ・・・(笑い)」

「私も夫が訪問看護師さんに夜中に来てもらった事があって本当にありがたかった・・・」

「訪問看護の事がよくわかりました。」「もっと聞きたかったです。」「自分なりに元気に暮らして行きたいです。」



お話の合間に自身のお気持ちを語られたり、肯いたり熱心に聴いて頂きました。ご自身の生活をイメージしながら、質問されるなど貴重なご意見をたくさんお聞きすることが出来ました。独居の方の見取り事例と聞きたい、介護認定の申請時期や更新についての質問など、積極的に出していただきました。「訪問看護を利用してご主人を自宅で看取られた方が最期に本当によかった本人も安心して逝ったと思います。」と話されました。